

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	<p>事業の目的は、キンザン省、チャビン省の幼稚園と小学校の教師が、障害ある児童を受け入れて、普通教室の中で、障害ある児童が、その児童に適した学習ができる事である。 インクルーシブ教育とは、通常の学級に障害ある児童も一緒に学ぶ教育である。</p> <p>その省のインクルーシブ教育の核となる選ばれた各省 30 名のキーティチャー（20 名初等教育、10 名幼児教育）に、NPO 法人アジア・レインボーは、7 月、インクルーシブ教育 2 週間研修を実施する。 2 週間研修を受けたキーティチャーは、自身の地区に戻り、地区内の全小学校と幼稚園の管理者とインクルーシブ教育の教師に 2 日間から 3 日間の地区研修を実施する。 地区研修を受けた管理者や教師は、各小学校と各幼稚園に戻り、校内研修を実施する。これにより、2 省の全小学校の教師と幼稚園の教師がインクルーシブ教育研修を受ける事ができる。地区研修や、校内研修後、幼稚園と小学校の教師は、障害ある児童に適した学習を提供する事ができる。その省の 30 名のインクルーシブ教育のキーティチャー（核）を育てる事により、キーティチャーが地区内研修を実施して、地区内研修に参加した管理者や教師が、自身の学校で校内研修を実施する。 その省内にインクルーシブ教育研修システムを構築する。</p> <p>The purpose of this project is teachers who work in kinder gardens and primary schools will receive children with disabilities in their classes. Children with disabilities can study at their level of academic and practical lessons together with non-disabled children in the same class. In Kien Giang and Tra Vinh provinces, Education and Training Departments select 30 key teachers (20 from primary schools and 10 from kinder gardens) in each province, send them to attending 2 weeks inclusive education training courses in their provinces. After our 2 weeks training courses, all key teachers go back to their province and their own district, then they provide 2 days or 3 days district training course for principals or teachers who receive children with disability in their classes at kinder gardens and primary schools. Principals and teachers who join district training courses will provide training courses in their own schools. Finally all teachers in kinder gardens and primary schools in 2 provinces can receive training courses of inclusive education. Teachers who join district or school training courses can provide suitable lessons for each child with disability. This project is to train 30 key teachers to learn inclusive education for each province, 30 key teachers provide each district training course, and principal or vice principal who join district training course provide training course in their own schools. This is the way that we build the system of training course of inclusive education for kinder gardens and primary schools in Kien Giang and Tra Vinh provinces.</p>

<p>(2) 事業 の必要性 (背景)</p>	<p>現在ベトナムの障害ある児童の就学率は全体で 25%程度¹とみなされる。ベトナムの障害ある 6 歳から 10 歳の児童およそ 21 万人²のうち、52,244 人³が初等教育を受けているという現状である。ベトナムにおいて特別学校は各省に 1 校しかなく、田舎に住む障害ある児童が町の特別学校に通うというのは不可能に近い。</p> <p>インクルーシブ教育は、ベトナムの政府の方針、特別学校の数が少ない現状、世界的な障害ある児童に対する教育の潮流から、非常にニーズの高い事業である。</p> <p>ベトナム政府は、各省の教育局にインクルーシブ教育推進を奨励しているが、各省の教育局、地区の教育室、各小学校の現場では、インクルーシブ教育を進める中で多くの問題を抱えている。</p> <p>当事業は、公立幼稚園の教師、公立小学校の教師にインクルーシブ教育研修を実施し、教師が障害ある児童を受け入れ、より多くの児童が初等教育を受けられることを目的としている。</p> <p><u>ベトナムにおけるインクルーシブ教育の現制度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 障害ある児童に診断書が必要。診断書があると、教師に特別手当が出される。障害ある児童に奨学金が支給される。しかし、ほとんどの省で、教師に特別手当が出されていない。 * 障害ある児童に診断書があると、担当の教師は、児童に IEP（個別教育計画書）、個別ファイル、個別プログラムを作成する必要がある。 * クラスが、診断書のある障害児童を受け入れると、クラスの生徒を 5 人減らす必要がある。 * ベトナムの地方では、障害ある児童を診断できる医者がいない。そのため、地方では人民委員会が障害ある児童の診断を担うが、多くの人民委員会の診断チームが稼働していない。 <p><u>キンザン省、チャビン省は、今までに教師にインクルーシブ教育研修を実施した事がなく、教師へのインクルーシブ教育研修事業は当事業が初めてである。キンザン省、チャビン省の今の問題は、</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ほとんどの教師がインクルーシブ教育研修を一度も受けた事のない状況で、小学校に障害ある児童を受け入れても、教師は教え方がわからないのでストレスを抱え、障害ある児童は学習する事がストレスになる。 2) 教師が、障害ある児童に何度教えても、児童は覚えない。 3) 障害ある児童は、同級生に心を開かない。同級生からいじめられる。 4) 障害ある児童は、クラス内で大きな声を出したり、動き回ったり、クラスの外に出て行く。教師は障害ある児童の行動問題に対応できない。 5) 教師は、障害ある児童のテストや進級について、どうしたらいいかわからない。 6) 教師は、インクルーシブクラスを担当したくない。
---------------------------------	---

¹ UNICEF ベトナム 2020 年度データ ベトナムの子供 <https://www.unicef.org/vietnam/children-viet-nam>

² UNICEF ベトナム 2020 年度データ ベトナムの子供 <https://www.unicef.org/vietnam/children-viet-nam>

³ ベトナムの教育省 小学校の就学データ 2018 年度データ <https://moet.gov.vn/thong-ke/Pages/thong-ke-giao-duc-tieu-hoc.aspx>

	<p>7) 教師は、IEP（個別教育計画書）の作成方法がわからない。</p> <p>8) 障害ある児童の両親は、児童の学習に無関心である。</p> <p>9) 障害ある児童の両親は、児童の将来に大変な不安を抱えている。</p> <p>10) 障害ある児童の両親は、障害ある児童の医療費にお金がかかる。 支払うことができない。</p> <p>11) 障害ある児童の両親は、自分の子供の障害を近所に知られたくない。</p> <p>●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性</p> <p>「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標4：すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。</p> <p>4.5：2030年までに、教育におけるジェンダ－格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にあるこどもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。</p> <table border="1" data-bbox="371 779 1449 1037"> <thead> <tr> <th>ジェンダー平等</th> <th>環境援助</th> <th>参加型開発／ 良い統治</th> <th>貿易開発</th> <th>母子保健</th> <th>防災</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2:主要目標</td> <td>0:目標外</td> <td>2:主要目標</td> <td>0:目標外</td> <td>2:主要目標</td> <td>0:目標外</td> </tr> <tr> <td>栄養</td> <td>障害者</td> <td>生物多様性</td> <td>気候変動（緩和）</td> <td>気候変動（適応）</td> <td>砂漠化</td> </tr> <tr> <td>1:重要目標</td> <td>2:主要目標</td> <td>0:目標外</td> <td>0:目標外</td> <td>0:目標外</td> <td>0:目標外</td> </tr> </tbody> </table> <p>●外務省の国別開発協力方針との関連性</p> <p>当事業は外務省の「対ベトナム社会主義共和国国別開発協力方針」のうち、大目標の「ベトナムの抱える脆弱な側面及び公正な社会・国づくりを包括的に支援する。」に該当する。</p> <p>中目標の（2）脆弱性への対応の「社会保障、社会的弱者支援等の分野で体制整備等の支援を行う。」に該当する。</p> <p>●「TICAD VIにおける我が国取組」との関連性</p> <p>該当なし</p>	ジェンダー平等	環境援助	参加型開発／ 良い統治	貿易開発	母子保健	防災	2:主要目標	0:目標外	2:主要目標	0:目標外	2:主要目標	0:目標外	栄養	障害者	生物多様性	気候変動（緩和）	気候変動（適応）	砂漠化	1:重要目標	2:主要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外
ジェンダー平等	環境援助	参加型開発／ 良い統治	貿易開発	母子保健	防災																				
2:主要目標	0:目標外	2:主要目標	0:目標外	2:主要目標	0:目標外																				
栄養	障害者	生物多様性	気候変動（緩和）	気候変動（適応）	砂漠化																				
1:重要目標	2:主要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外																				
(3) 上位目標	キンザン省全域、チャビン省全域の小中学校でインクルーシブ教育研修システムが構築され、他省のモデルとなっている。																								
(4) プロジェクト目標	各地区内でインクルーシブ教育研修システムが構築され、各小中学校や幼稚園の教室で、障害ある児童が適切な教育を受ける事ができる。																								
(今期事業達成目標)	<u>キンザン省、チャビン省</u> 各地区内で、インクルーシブ教育の地区研修が実施され、小中学校や幼稚園の教室で、教師は障害ある児童に適切な教育を提供している。																								

<p>(5) 活動 内容</p>	<p><u>キンザン省、チャビン省</u></p> <p>事業 1 年目のキーティチャー育成研修（活動 1）は、①各障害別の特徴、②教師のインクルーシブクラスの運営方法、③IEP（個別教育計画書）の作成演習を実施する。</p> <p>240 名対象の 3 日間研修（活動 2）は、① 各障害別の特徴、③IEP（個別教育計画書）の作成演習を実施する。</p> <p>キーティチャーによる地区研修（活動 3）は、①. 各障害別の特徴、②教師のインクルーシブクラスの運営方法、③IEP（個別教育計画書）の作成演習を実施する。</p> <p>車椅子や補聴器を必要な児童に教育局を通して供与する。</p> <p>事業 2 年目のキーティチャー育成研修（活動 1）は、①IEP（個別教育計画書）を作成するための障害ある児童のアセスメント（観察手法）、②障害ある児童の両親へのカウンセリング演習、③クラス内で同級生が障害ある児童を支援する見守り隊の結成方法、ピア・ティーチング、④小学校内で、校内のインクルーシブ教育を支援する組織の結成方法研修を実施する。</p> <p>240 名対象の 3 日間研修（活動 2）は、① 各障害別の特徴、③IEP（個別教育計画書）の作成演習を実施する。</p> <p>キーティチャーによる地区研修（活動 3）は、①IEP（個別教育計画書）を作成するための障害ある児童のアセスメント（観察手法）、②障害ある児童の両親へのカウンセリング演習、③クラス内で同級生が障害ある児童を支援する見守り隊の結成方法、ピア・ティーチング、④小学校内で、校内のインクルーシブ教育を支援する組織の結成方法研修を実施する。</p> <p>点字テキストや眼鏡を必要な児童に教育局を通じて供与する。</p> <p>事業 3 年目のキーティチャー育成研修（活動 1）は、①60 名のキーティチャーが 2 週間研修で講師を務める模擬講師研修を実施する。②各幼稚園、各小学校が、地区内で人民委員会、奨学会、福祉団体などと協力する方法を学ぶ。③IEP（個別教育計画書）の作成演習、アセスメントの作成演習を再度学ぶ。</p> <p>240 名対象の 3 日間研修（活動 2）は、① 各障害別の特徴、③IEP（個別教育計画書）の作成演習を実施する。</p> <p>キーティチャーによる地区研修（活動 3）は、①各幼稚園、各小学校が、地区内で人民委員会、奨学会、福祉団体などと協力する方法を学ぶ。②IEP（個別教育計画書）の作成演習、アセスメントの作成演習を再度学ぶ。</p> <p>車椅子や補聴器を必要な児童に教育局を通して供与する。</p> <p>NPO 法人アジア・レインボーは、外務省 N G O 連携資金無償協力により、2014 年から 2017 年度まで、ドンナイ省、ラムドン省において、インクルーシブ教育研修システムの構築事業を実施した。2017 年から 2020 年度まで、アンザン省、ビントゥアン省において、インクルーシブ教育研修システムの構築事業を実施した。</p>
----------------------	--

この6年間の失敗、反省、成果を、今回の事業に生かしている。6年前は、オランダのインクルーシブ教育を、ドンナイ省やラムドン省に移行しようとした。オランダでは、障害ある児童に、特別支援教育士、言語セラピー、身体活動セラピー等、多くの専門家の支援がある。また、障害ある児童が小学校に入学する前には、早期教育を受けることができる。しかし、ベトナムでは、予算がとれないため、専門家の支援も、早期教育も受けられない。特別支援教育士もない。事業が大きな壁にあたった時、木村泰子先生の大空小学校の実践を見る機会があった。大空小学校には、専門家がいるわけではない。200人の在校生のうち50人の障害ある児童が学んでいる。日本のNHKや関西テレビでもドキュメンタリー映画として放映された大空小学校「みんなの学校」は、タイトル通り、学校のみんなが障害ある児童を支援する。

アンザン省、ビントゥアン省の事業では、この「みんなの学校」の映画を上映し、木村泰子先生に、3年間、研修の講師として来て頂いた。

ベトナムでは、この「みんなの学校」のやり方が、すべてできるわけではない。外部の人が学校に入って手伝えることは難しい。しかし、アンザン省、ビントゥアン省の60人のキーティチャーは、「自分たちは、この映画の中で、できる事をしよう」と立ち上がった。アンザン省、ビントゥアン省の60人のキーティチャーは、ベトナムのインクルーシブ教育を次々に誕生させている。

活動1 キーティチャー※ 育成研修毎年7月 (N連の予算で実施) **研修1**

※インクルーシブ教育において、その省の核となる人材

キンザン省、チャビン省

各省の教育局が小学校の校長・副校長、幼稚園の校長、教育局の職員からキーティチャー30名を選任。事業1年目に選任された各省30名のキーティチャーは、毎年7月にベトナムで2週間、3年間継続して研修を受ける。

活動2 各小学校校内指導教師研修 毎年10月 (N連の予算で実施) **研修2**

当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チームが、毎年、キンザン省、チャビン省で、それぞれ120名(計240名)を対象にしたインクルーシブ教育研修を、各省2回6日間: 幼児教育、初等教育対象の研修を実施する。それにより各省の各幼稚園、各小学校に1名~3名のインクルーシブ教育の校内指導教師を育成する。(事業3年目で計720名の教師への研修)

*ホーチミン市障害児教育専門家チームには、先行事業で育成されたビントゥアン省、アンザン省の60名のキーティチャーの内、数名の優秀なキーティチャーも参加する。

活動3 各地区の地区内研修 毎年8月~10月 (各2省各地区教育室の予算で実施、アジア・レインボーの専門家による適時の支援) **研修3**

各2省の各地区(全24地区)では、各地区2名~4名のキーティチャーが、自身の所属する地区内の幼稚園と小学校の校長や副校長や教師(およそ50名~100名)に対して、必要時研修を実施する。

<p>(6) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>活動 4 <u>各小学校、幼稚園の校内研修 毎年各学校の適時</u> (各 2 省各地区教育室の予算で実施、アジア・レインボーの専門家による適時の支援) 研修 4</p> <p>各 2 省 (全 24 地区) の各小学校、各幼稚園では、専門家により育成された校内指導教師が、障害ある児童を受け持つすべての教師に対して、必要に応じて研修を実施する。この校内研修により、校内の全教師がインクルーシブ教育研修を受ける事ができ、教師はクラスの障害ある児童を受け入れる事ができる。</p> <p>活動 5 <u>各 2 省全地区対象モニタリングの実施</u> (N 連の予算で実施)</p> <p>アジア・レインボーは、毎年、キンザン省、チャビン省の全 24 地区でモニタリング及びカウンセリングを実施する。モニタリングでは、毎年全地区の小学校と幼稚園を訪問して、各地区のインクルーシブ教育研修の構築状況を把握する。モニタリングの際、校長や教師から受けた問題は、その地区の教育室や省の教育局に相談して対応したり、次年度の研修 1で、同じ問題を解決したケースを研修に組み込んで対応する。</p> <p>活動 6 <u>キンザン省、チャビン省の 2 省にインクルーシブ教育のガイドブックを支援、補聴器、車椅子を支援する。</u> (N 連の予算で実施)</p> <p>アジア・レインボーは、キンザン省、チャビン省の 2 省の小学校の教師のために、前事業で出版したインクルーシブ教育のガイドブックを、2 省の教育局を通して各小学校に配布する。また、補聴器や、車椅子も、各省のニーズに基づいて支援する。小学校に供与した補聴器や、車椅子の管理方法は、2 省 24 地区の各地区の教育室が管理する。各教育室は、毎年アジア・レインボーに補聴器と車椅子の貸与の状況を報告する。</p> <p>直接裨益人口 2 省全 24 地区のインクルーシブクラスの教師およそ 2,000 人 2 省全 24 地区の学齢期にあたる障害ある児童およそ 2,500 人</p> <p>間接裨益人口 2 省全 24 地区学齢期にあたる障害ある児童の両親、祖父母、兄弟およそ 10,000 人</p>

成果 <u>キンザン省、チャビン省 全 24 地区</u>			
成果	小学校や幼稚園の教室で、教師は障害ある児童に適切な教育を提供している		
	成果を測る指標	年度毎の目標	根拠
	近隣の小学校に通う障害ある児童の就学率が向上する。	障害ある児童の就学率 事業 1 年目 60% 事業 2 年目 75% 事業 3 年目 90%	事業実施前は、障害ある児童の就学率は 50%以下である。
	近隣の小学校へ通う障害ある児童の退学率が減少する。	障害ある児童の退学率 事業 1 年目 30% 事業 2 年目 20% 事業 3 年目 0%	事業実施前、インクルーシブ教育研修を受けた教師は、ほとんどいないので、障害ある児童は入学しても、授業がわからないから、退学するケースが多い。
	障害ある児童を受け入れた教師のうち、個別ファイルや、IEP(個別教育計画書)を作成している教師の数。	事業 1 年目 1000 人/2000 人 事業 2 年目 1500 人/2000 人 事業 3 年目 2000 人/2000 人	障害ある児童が、教室内であっても、一般教科とは別の、児童の能力に合った学習を受けるためには、児童の障害や家族構成などの個別ファイルや、児童の個別の能力や、個別学習目標が記載された IEP(個別教育計画書)が必要となる。障害ある児童を受け入れた教師全員適切な個別ファイルや IEP(個別教育計画書)ができるのは 3 年かかる。
	学力が向上した障害ある児童の割合。	事業 1 年目 30% 事業 2 年目 50% 事業 3 年目 70%	事業実施前、教師は、障害ある児童を教室に座らせているだけで、個別の学習支援はなされていない。教室で、障害ある児童は、他の児童と同じ一般教科を学習している。事業が始まり、教師は障害ある児童に IEP(個別教育計画書)を作成して、障害ある児童の学習を支援している。
	障害ある児童の両親(または祖父母)の内、児童の学習や生活が向上したと考える両親(祖父母)の数。	事業 1 年 1500 人/2500 人 事業 2 年目 2000 人/2500 人 事業 3 年目 2500 人/2500 人	事業実施前は、ほとんどの家族が子供の学習や生活は困難だと考えている。障害ある児童全員の家族が、子供の学習や生活が向上したと考える事を目標とする。前事業を参考に 3 年にした。

		車椅子の支援を受けた児童の両親(または祖父母)が、児童の学習や生活が向上したと考える。	1人で小学校内を移動することができる。 1人で家の中を移動する事ができる。	車椅子によって、児童の移動範囲がかなり拡大する。
		補聴器の支援を受けた児童の両親(または祖父母)が、児童の学習や生活が向上したと考える。	教室で、教師の話が聞こえるようになる。 家の中で、家族の話が聞こえるようになる。	補聴器によって、児童の聴力のデシベル数が向上する。
	成果を測る指標の確認方法	*アジア・レインボーは、毎年、キンザン省、チャビン省全地区でモニタリング及びカウンセリングを実施する。その時、指標についてもヒアリングする。 *アジア・レインボーは、車椅子や補聴器の支援を受けた児童や、児童の両親(祖父母)にヒアリングする。 *毎年、2省の教育局に、障害ある児童の就学率、退学率のデータを提出してもらう。		
(7) 持続 発展性	<p>事業終了後は、各省の教育局が主体となり、申請事業によって育成されたキーティチャーと各省教育局が協力して、「1. キーティチャーが地区内の教師に研修を実施する。」「2. 地区内研修を受けた教師が、今度は自身の小学校内や幼稚園内で研修を実施する。」という研修システムを継続していく。</p> <p>事業終了後は、すでに24地区でインクルーシブ教育研修システムが構築されているので、続けて、申請事業の活動3と活動4が継続される。活動3と活動4は、申請事業でも、各地区の予算、各小学校の予算で実施される。つまり、事業終了後の予算は確保されている。</p> <p>この事業で最も力を入れているのは、各省のキーティチャー60名の育成である。各省の各地区で数名のキーティチャーが協力し責任をもって、自身の所属する地区の障害ある児童を受け入れた教師に対して、必要時に研修を実施できる能力を育成すれば、持続的にその地区では研修が実施される。(別添1参照)</p> <p>供与した機材の管理は、2省24地区の各地区の教育室が実施する。供与を受けた地区の教育室は、毎年アジア・レインボーに機材の状況を報告する。機材の修理は、機材の供与を受けた各小学校が実施する。この旨は、事業実施時に、アジア・レインボーと2省の教育室が契約書を交わす際、契約書に盛り込む。</p>			